



平成27年11月12日

各 位

上場会社名 株式会社ジーンテクノサイエンス
 代表者 代表取締役社長 河南 雅成
 (コード番号 4584)
 問合せ先責任者 執行役員管理部長 上野 昌邦
 (TEL 011-876-9571)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年5月14日付「平成27年3月期 決算短信」にて公表いたしました業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成28年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,022	△602	△573	△575	△232.62
今回修正予想(B)	1,132	△1,045	△1,019	△1,021	△404.73
増減額(B-A)	110	△443	△445	△445	
増減率(%)	10.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	321	△824	△790	△792	△331.86

修正の理由

【売上高の増加】

平成27年8月26日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しました後も、G-CSFバイオ後続品(バイオシミラー)の販売は順調に推移し、平成28年3月通期として増加する見込みが高くなりました。その着実な販売推移を織り込み、従来通期業績予想の1,022百万円から1,132百万円へ修正いたします。

【研究開発への積極投資による早期の企業価値最大化】

当社は平成25年2月28日に資金調達を実施して以来、複数のバイオシミラーパイプラインの初期段階の開発を鋭意進めてまいりました。これらのパイプラインの開発が確実に進展し、本日付の千寿製薬株式会社(以下、「千寿製薬」といいます。)との眼科治療領域のバイオシミラーにおける資本業務提携及び本年8月11日付の持田製薬株式会社とのがん治療領域におけるバイオシミラーの業務提携へと結実いたしました。

この度、更なる継続的な企業価値の向上とともに、早期の企業価値最大化を実現するために、当社のバイオシミラー事業における開発戦略を一新し、提携先との協業による事業化及びマイルストーン収入等による速やかな収益化の見込みが高いパイプラインの研究開発をより加速することといたしました。

その企業価値最大化の戦略の一環として、上述の眼科治療領域の研究開発費を積極的に計上し、平成27年4月10日付「平成28年3月期に係る業績予想に関するお知らせ」にて公表いたしました平成28年3月期の研究開発費739百万円を557百万円増額させ、1,296百万円の予想とします。また、研究開発費の増額に伴う営業損失及び経常損失の増加額はそれぞれ443百万円及び445百万円となる予想です。

以上